

7月15日編集

○有峰の風景 梅雨の晴間に！

梅雨の晴間の有峰を紹介します。



有峰湖展望園地より有峰湖を望む (7/15 撮影)



早朝有峰ハウス前より薬師岳を望む (7/15 撮影)



昼間有峰ハウス前より薬師岳を望む (7/15 撮影)

○樹皮はぎ(クマはぎ)の被害再発！

7月7日(火)夕方4時頃雨が断続的に降りしきる中、猪根平ビジターセンター裏(猪根山側)にツキノワグマの小熊が出没しました。やはりアリを物色・探索、捕食していました。アリを捕食したあとは土や石が掘り起こされていました。

小池伸介著「森と生きる。ツキノワグマのすべて」/

文一総合出版によるとツキノワグマの名前の由来は、胸にある白い模様が「三日月」に見えるからです。この日、この個体がバーベキュー広場の看板の樹皮はぎ行動をしているところを偶然目撃しました。写真に取ることができず残念でした。

さらに、7月に入りツキノワグマによる樹皮はぎ(クマはぎ)行動が続発し始めました。ほぼ去年の同じ時期に発生しています。同じ個体による行動でしょうか？有峰で樹皮はぎの被害を受ける樹種は、植栽されたカラマツやスギが多いのも特徴です。小池伸介著「森と生きる。ツキノワグマのすべて」/文一総合出版では、樹皮はぎ行動の目的は不明とのことですが、樹皮をはいだ際に出る揮発性の物質が、クマを要因するのでは？とも記載されており、今後も継続して調査していく予定です。クマは基本的には昼行性の動物ですが、樹皮はぎの現場に遭遇することはほとんどありません。今回紹介した個体が樹皮はぎ行動をしている現場を目撃できたこと、大変幸運だったと考えています。樹皮はぎ被害の拡大を懸念しています。



白い模様「三日月」を見せ立上るツキノワグマ



カラマツの根元でこちらの様子を伺うツキノワグマ



辺りを見回すツキノワグマ



降雨の中こちらの様子を伺うツキノワグマ



アリ物色中のツキノワグマ



アリを捕食し掘り起された地面
(猪根平テニスコート前の道路際にて 7/7 撮影)



こちらを凝視するツキノワグマ



昨年樹皮はぎされたカラマツの現状





樹皮はぎされたバーベキュー広場の看板
(バーベキュー広場にて 7/7 撮影)



ごく最近樹皮はぎされたばかりのカラマ
猪根山にて撮影 (7/15) 立ち枯れが心配されます



ごく最近樹皮はぎされたカラマツ
(猪根平多目的ひろばにて 7/15 撮影)



ごく最近樹皮はぎされたばかりのカラマ
猪根山にて撮影 (7/15) 立ち枯れが心配されます



ごく最近樹皮はぎされたばかりのカラマ
猪根山にて撮影 (7/15)



ツキノワグマの被害を受けた常設のベンチ
北電記念館横有峰湖展望園地にて 7/15 撮影

□昆虫編

○イカリモンガ（イカリモン科）

7月7日、7月26日（日）開催予定の「ネイチャーフォト」の下見のため、桐山散策路の点検に行きました。この散策路で、経路散策中にこの昆虫を見つけました。この昆虫、はたしてチョウでしょうか？それともガでしょうか？

実は、大きさ（開張）35mm前後の茶色でやや角張った形の翅を持つが、イカリモンガです。前翅にはオレンジの紋が特徴です。

「日中に活動する」「はねをたたんでとまる」「触角が細い」などガの仲間でありながら、チョウの仲間の特徴をもっています。溪流沿いの薄暗い環境でよく見られ、幼虫は、イノデなどのシダ類を食べて育ち、成虫で越冬します。文献：昆虫エクスポラ



有峰ハウス前の小庭に移植されたヤナギラン



葉上で静止中のイカリモンガ

桐山散策路にて7/11撮影

□植物線

○ヤナギラン（アカバナ科ヤナギラン属）

ミズバショウ、ヤナギラン、クガイソウは有峰三名花として言われています。有峰三名花の一つヤナギランが咲き始めました。ヤナギランは和名の由来は、葉が柳に似ていて、花をランにたとえたことによります。

【特徴】 やや薄い緑色または薄紅紫色を帯びた茎は高さ0.5-1.5 mで、ほとんど枝分れせずまっすぐ上に伸びる^[2]。葉は互生し、総状花序に濃紫色の花が下から順に咲く。長さ1-1.5 cmの花弁は4個で、雄しべは8個、開花時期は7-9月

文献：ウィキペディアフリー百科事典よる抜粋